

開催にあたって

私たち真宗大谷派は、『仏説観無量寿経』序分・禁母縁に説かれる「是旃陀羅」の語について、誤った受けとめのままに長い間、教化の営みをしてきました。それによって部落差別を助長する布教をし、ご門徒をはじめ社会に対して差別する根拠を生み出し、長年にわたって被差別部落の人びとに耐え難い苦しみを与えてきました。そうした歴史を省みるとき、宗門に身を置く一人として、まことに慚愧の念に堪えません。

真宗大谷派は、さまざまな差異を認め尊敬しあい、あらゆる人びとと共に宗祖が顕かにされた本願念仏の教えを聞いていく、同朋社会の実現を願う教団です。今、差別に苦しむ人びとの現実を目を背け、同朋会運動の願いを見失ってきた教団であることが問われています。その問いは当然、道を求める者に平等に開かれる仏陀釈尊の教えによって、新たな人間関係からなる僧伽を実現しようという、真宗門徒としての、私たち一人ひとりの課題であります。

現在、この問題を通して、僧侶や門徒といった立場を越えた学びの輪が全国に広がっています。一層の学習と理解の促進のため、本展がその一助となることを願います。

この「是旃陀羅」問題から、あらためて被差別者からの問いかけに向き合い、『仏説観無量寿経』序分を読みなおします。そして、宗祖親鸞聖人の出遇われた「われら」の地平に立ち帰り、同朋会運動を再生する歩みを、一人ひとりの足もとから確かめてまいります。

2025年12月

宗務総長 木越 渉